

学園創立140年

ごきげんよう 跡見学園

2015年、跡見学園は創立140年という記念すべき年を迎えます。学祖・跡見花蹊が「跡見学校」を立ち上げて以来、明治・大正・昭和・平成と大きく変化する時代のなかで、多くの有為な女性を育ててきた学園の歴史を、写真とともに振り返ってみましょう。

跡見学園140年の歴史

明治



ここから始まる

明治8年(1875)

開校当時の校舎正面。1月8日に開校式が行われ、即日入学した華族等の子女は80名を数えたとされる。その後も華族・貴顕の子女の入学が相継いだ。

大正4年(1915)

この年に校服を制定。前列の3人の髪型は「ガバレット」になっている。

大正

大正2年(1913)

新築の校舎正面。茶室では、明治期から続いている点茶の授業も行われた。



表 間 時 業 授

午 後	土	金	木	水	火	月	通 年 間
琴 (木曜・水曜・日曜)	裁縫	算学	裁縫	算学	裁縫	算学	至午前八時 至午前十時
點茶 (水曜・土曜)	漢学	漢学	漢学	漢学	漢学	漢学	至正午十二時
插花 (水曜)	國史	國史	國史	國史	國史	國史	至午後三時

明治27年(1894)

当時の時間割。このころから琴や点茶、插花の授業を行っていた。花蹊も教鞭をとっており、習字の授業等を担当していた。



明治32年(1899)

この年に制定された黒紋付式服。



跡見学校の寄宿舎 お塾

— 教育は教室だけで終わりではない —
— という理念から生まれたお塾(寄宿舎)教育

花蹊は教育思想を「起居寝食をともにしての家庭的薫化こそが、子女教育の根本だ」とし、開学当初から寄宿舎を設置。一室につき同室者は8名までとし、部屋ごとに学術や徳行の優秀な生徒を室母に据えた。室母は同室の生徒の諸礼(髪型や衣服の着方)を正したり、勉強の面倒を見たりして部屋のまとめ役を担い、寄宿生活の規律を生徒自らが正すように努めた。生活をともにした生徒は、やがて互いに姉や妹のような存在となり、それが豊かな人間性の素地となった。



大塚新校舎の寄宿舎。寄宿舎で年を越す生徒もいた。

明治44年(1911)

寄宿舎内の部屋の様子と、寄宿生。



次代を見据えた
先進の教育で
女子教育を牽引

跡見学園の歴史は、跡見花蹊が1875年に東京・神田中猿楽町(現在の千代田区西神田2丁目)に開いた「跡見学校」

跡見学校の本物の教育
学校行事

「本物」に触れる教育を实践するため
積極的に行われた社会見学や遠足、修学旅行

花蹊は日頃から近隣や、縁故の名士の庭園あるいは社寺などによく塾生や生徒を連れ出しては、春の摘み草、花見、紅葉見物、名園拝観等を楽しんだ。これにより塾生や生徒は、日常生活に刺激を受けると同時に美しいものを見る目を養い、先人の知恵を体感した。このような社会見学のほか、遠足や修学旅行などの行事も早くから取り入れ、交通機関の発達とともに行動範囲も近県から関西へと広がり、跡見生は見聞を広げていった。



明治45年(1912)

大宮公園への遠足風景。先頭は花蹊。



大正2年(1913)

稲毛への遠足写真。



昭和5年(1930)

この年に洋装の校服を制定。とはいえ、運動場(中庭)での体操風景には、まだ和装の校服もみえる。



昭和25年(1950)

この年、創立75年を迎えた学園では、短大も開学。式典と短大開学記念祭が行われた。



昭和27年(1952)

制服が当時から評判だったことから、『アサヒグラフ』4月16日号の表紙を飾った。



昭和34年(1959)

当時の学園(文京区)周辺の航空写真。

平成



平成7年(1995)

学園創立120年を迎えた。



平成2年(1990)

学園に中高新校舎を竣工。



平成20年(2008)

学園(文京区)周辺の航空写真。短大西館跡地に、大学2号館を竣工。都市景観賞をいただいた。



平成27年(2015)

学園創立140年、大学開学50年。大学に観光コミュニティ学部を新設。



昭和50年(1975)

学園創立100年。写真は、高校三年生による人文字。



昭和40年(1965)

東海道新幹線を利用した修学旅行の第一号となり、NHKのニュースなどに取り上げられた。同年、学園創立90年を記念して新座に大学を開学。

学祖・跡見花蹊の精神を継承しながら、跡見学園は次の10年に向けて着実に前進していきます。

文化・充実が図られています。がら短期大学部は閉学となりましたが、大学は2015年春に新学部「観光コミュニティ学部」を新設し、3学部8学科に大きく飛躍。中学校・高等学校も「真のグローバル人材」育成に向けて、カリキュラムの強化・充実が図られています。

に始まり、開校当時から琴点茶(茶道)、插花(生け花)を正規の授業に取り入れ、品格と教養を兼ね備えた新時代を拓く女性の育成を打ち出した教育は、当初から高い評価を受けました。それから140年、学園は女子総合学園として大きく発展しました。2007年に残念ながら